

## 平成30年度第4回精華町社会教育委員会 会議録

### ■日時

平成30年9月19日（水）午後2時40分から3時30分まで

### ■場所

精華中学校 会議室

### ■出席委員

- ・田中 智美      ・上村 卓三      ・白畑 丈子      ・高鍋 房美      ・吉川 博文
  - ・尾崎 麻由美   ・谷 譲二      ・堀内 保寛      ・村上 栄      ・網野 俊賢
- （欠席：清水委員、瓦委員）

### ■出席事務局職員

- ・教育委員会教育部生涯学習課長：石崎 勝巳
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：河西 聖子

### ■傍聴者

なし

### ■内容

#### 【会議】

#### 1 開会

吉川委員長 あいさつ

- 会議前にシニアスクールの視察を行った。
- 台風被害で、地元の神社の木が倒れたり社が飛んでしまったりして、現在神社の相談をしており、対応が大変だった。
- 今年は地震や台風など災害が多く、自助、公助、共助が必要であり、地域の中で助け合うことが大切である。共助のためにも近所同士で顔を知らないとなかなか難しい。特に地域のつながりが薄くなっていると言われるが、社会教育委員が少しでも寄与できればと思う。
- 新しく公募委員の網野さんが今日から参加いただいている。

網野委員 あいさつ

- 町民としては3年半の新人。元々京都の生まれで、20年間アメリカで勤務し、定年後大学で教えるなどしてきた。精華町の方と出会う機会はないかと思ひ、応募をした。
- 社会教育委員としては新人であり、よろしくお願ひしたい。

#### 2 報告

- (1) 平成30年度やましろ未来っ子まなび・体験活動サポーター研修会  
9月6日（木）午後1時～午後4時30分、精華町むくのきセンター。

### 堀内委員

- 実践発表では、宇治市の小学校の事例で、放課後に地域の方が子どもたちに宿題をおしえるなど学習習慣を身に付けるための取組を紹介された。講演では、人との交流重視で、隣の方に自己紹介をするところから始まり、4人や8人でゲームをするなど体験活動が紹介された。グループ討議では、4～5人ごとで集まり、活発に情報交換などを行った。

## (2) 近畿地区社会教育研究大会（和歌山大会）

9月7日（金）午前10時20分～午後3時40分、和歌山県民文化会館等。

### 分科会2：人権教育（京都府）

#### 村上委員

- 助言者として参加。笠置町での取り組みを紹介。笠置町は町民1300人、小学校20人、幼児がいない中で、みんなで元気になろうと府の様々な事業を取り入れている。また、笠置中学校の研修会では特に障害者や国際的な方の発表などもある。
- 質疑応答でなぜ同和問題が中心なのかという質問があった。部落差別は歴史的に作られたものである。女性差別などとは成り立ちが違う。井手町では社会教育委員として勉強しているとの意見もあった。同和問題は人権問題の柱だと考えている。当日は、熱い話し合いがあった。

#### 白畑委員

- 同和問題は江戸時代からあり歴史が違うとの話があり、考えさせられた。

#### 村上委員

- 人権白書では、結婚問題で同和問題を感じる方が40%いる。目に見えないが、同和問題以外の様々な差別も考えていき、「共生」の考えが必要である。目の前の不合理に目を背けないで、考えていかなければいけない。

#### 田中委員

- 村上委員が当日報告された統計を一覧にしていきたい。本日、人権推進協議会があり、笠置町の報告も行った。委員から人権と同和は違うか、同じかという話があった。自分は、同和は人権の源だと思う。笠置町は熱心に活動され、研修会もよく参加されている。精華町でもかなり同和問題に関して理解が進んできたと言われていたが、もっと啓発活動を行っていかねばいけないと事務局に話もしたところである。社会教育委員としても取り組んでいきたい。

### 分科会3：学校・家庭・地域の協働（大阪府）

#### 上村委員

- 地域おこしとコラボレーションして、ボランティアで大きなつながりをつくっていると灰塚市の方が報告されていた。
- 基調講演が大変感銘を受けた。高野山のことをザビエルが社会貢献として、「ひとつの学びであり、ユニバーシティである」などと報告していたとのことである。

### 分科会5：学校・家庭・地域の協働（奈良県）

#### 尾崎委員

- 天理市の小学校の先生から、小学生の学習意欲を盛り上げようと、子どもの夢を地域の大人が叶える、そして地域の方がつながっていくという事例報告であった。すばらしいプロジェクトになっている。

#### 網野委員

- 地域を巻き込んだ活動でのマネジメント能力、プロデューサーの大切さを感じた。最初は学校図書館で閑古鳥が鳴いていたのをなんとかしたいところから始まり、学校図書館そのものを町の資源と考え、そこからボランティアの方と学習支援に取り組んだ。次に子どもたちの夢を実現させるために、美容院の方など町のエキスパートを巻き込んでいった。学校が地域の資源となって町おこしにつながっているというプロセスを見たように感じた。

#### 高鍋委員

- 学校図書館の問題から、学校を開放することで地域を活性化しようということになった。地域を活性化することで子どもたちに安心感・責任感を与える。地域のポイント制というのがあり、地域貢献をすることでポイントがたまり、ポイントで学習塾に行け、ポイントがたまったら子どもから先発された子どもが夢プロジェクトを実現させる。いい関係で、学校と地域が協働してつながっていると感じた。

### 3. 議事

#### (1) 第16回精華町子ども祭りについて

- ・リニューアルして、せいか祭りと同時開催で、11月18日（日）午前10時～午後3時、けいはんなプラザのメインホール、イベントホールで行う。今まで通りの体験コーナーの他、ステージイベントとして小中学校の吹奏楽や大正琴、絵画発表などを行う予定にしている。
- ・9月28日に実行委員会を開催し、詳細を決めていく。

#### (2) その他

- ・太田教育長が9月30日をもって退任し、10月から新しく川村教育長が着任となる。退任式と新任式のご案内を配布している。
- ・森川図書館長は9月30日で退任、杉本副館長として来られる。
- ・教育委員との懇談会を来年1月か2月に行う。テーマの検討をお願いする

#### ◎閉会のあいさつ

#### 高鍋副委員長

### 5 閉会